

研究主題「予防的な健康相談活動における校内連携の在り方

児童理解の力の向上を目指した校内研修システムづくり」

東京都教職員研修センター 研修部 授業力向上課

江戸川区立南葛西第二小学校 養護教諭 高橋輝美

I 研究のねらい

児童の生きる力をはぐくむために、確かな学力の定着が必要である。そのためには教員の資質・能力の向上が不可欠であり「東京都公立学校の「授業力」向上に関する検討委員会報告書」（平成16年9月）では、「各学校においては、教員が相互に研さんしながら、日常的に「授業力」を高めていくシステムを構築することが重要である」と述べられている。

現状として、多くの学校では、学校長の経営方針に基づき、教員の授業力向上を目指し校内研修に取り組んでいる。しかし、研修評価が十分ではなかったり、研修システムが確立されていない場合もある。そこで、一人一人の教員の授業力を向上させるための校内研修にする必要がある。

一方、児童をとりまく現状は、大人社会の人間関係の希薄化や少子化・核家族化等から、人間関係の基礎であるコミュニケーション能力を身に付けることが難しい状況となっている。学校では自分の感情や思いをうまく伝えられなかったり、相手の思いや願いを理解したりすることが難しいために仲間づくりが苦手な傾向がある。あるいは、それが起因して心身の不調を訴えたり負傷をしたりする児童が保健室に来室することがある。

このようなことから、学校が児童にとって集団づくりの基礎を学ぶ場として機能し、教員が児童のコミュニケーション能力を育成するための役割を担わなければならないと考える。そのためには、教員の授業力の6つの構成要素のうちの一つである児童理解の力を向上させ、教員のコミュニケーション能力を向上させる必要がある。本研究では、養護教諭の健康相談活動から予防につなげるための校内研修を企画・運営する。そこで、養護教諭の専門性を生かし児童理解の力に焦点を当て、教員の資質・能力向上のための校内研修システムを構築する。研究を進めるにあたり、以下のように研究仮説を設定した。

〔研究仮説〕

養護教諭が、健康相談活動の校内連携の一つとして、マネジメントサイクルを活用した校内研修を、養護教諭の特質を生かし、教員の目標に沿って企画運営を行う。それにより、教員の児童理解の力と学級集団づくりの能力が向上するであろう。さらに、児童のコミュニケーション能力の育成につながるであろう。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 校内研修の在り方

「東京都公立学校の「授業力」向上に関する検討委員会報告書（平成16年9月）」では、校内における研修を通じた教員の授業力の向上について校内研修のとらえ方が示され、教員の相互研さんによる授業力の向上を図るためのシステムを構築することが重要であるとされている。また、東京都教職員研修センター 紀要第5号（平成18年3月）では、「学力向上を図るための

指導に関する研究 『授業力』向上を図るためのOJTシステムの開発』により、マネジメントサイクルの手法を取り入れたOJTシステムが提案された。これにより、効果的な校内研修を実施するために「R-PDCAサイクル」を活用した研修システムづくりが有効であることが分かった。

(2) 養護教諭の健康相談活動

保健体育審議会答申（平成9年9月）により、養護教諭の行う健康相談活動が養護教諭の職務に位置付けられた。養護教諭が行う健康相談活動は、学校の教育活動の一環であり、それだけで機能するものではなく、学校長の学校経営方針に基づく学校保健経営を行う中で実施されなければならない。健康相談活動では、児童の健康問題が顕在化する前に、児童の心身の健康問題に関する教員の理解を深める校内研修を行うなど、予防的な連携活動を行うことが必要であることが分かった。

(3) 教員と児童のコミュニケーション能力の育成

「東京都教育ビジョン」の学童期の取り組みの「方向」と「提言」によると「生涯学習の基盤となる確かな学力を育成し、一人一人の個性・能力を伸ばします。」【方向4】として、さらに「人間関係の基礎となるコミュニケーション能力の確かな育成」【提言9】が必要であるとしている。児童が主体的に問題を予防し、問題に取り組むことのできる力を付けるために、人間関係をはぐくむ能力を意図的かつ計画的に育成する必要がある。人間関係をはぐくむための基礎となるコミュニケーション能力を育てるために、教員には、個々の児童の変化に気付く力を付けることが求められる。自己理解・他者理解は、コミュニケーション能力の大きな要素である。教員がコミュニケーション能力を高めることは、児童のコミュニケーション能力を育成するために必要であることが分かった。

2 研究実践

(1) 児童理解のための視点

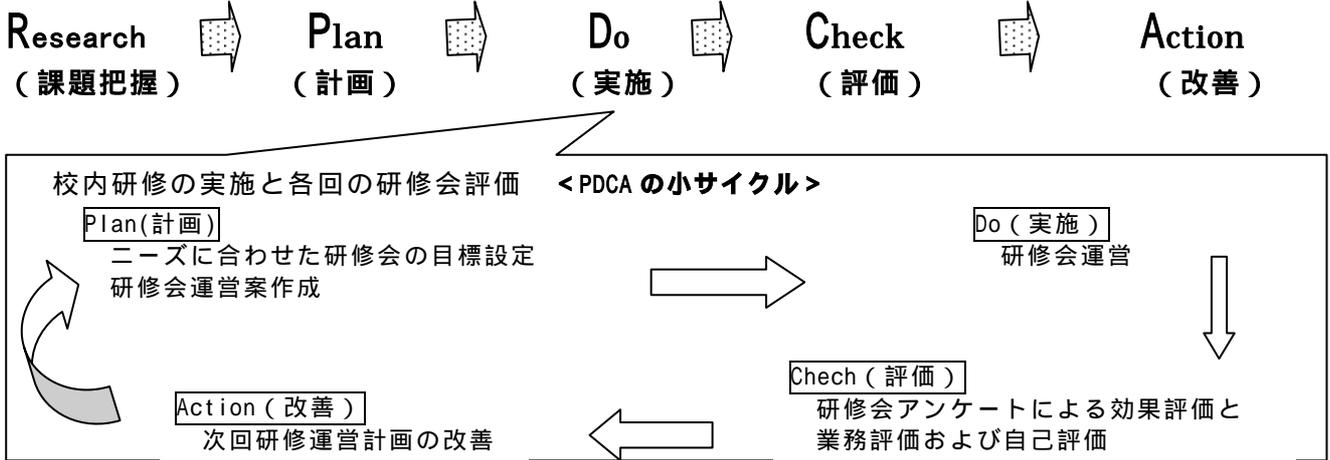
教員の児童理解は、それぞれの教員の経験や研修により差異が生じる場合がある。児童理解のための視点を整理し定めることにより、児童に対する観察が深まるのではないかと考えた。養護教諭の視点から、発達や学習の等の項目とともに基本的な生活習慣や体の健康等の6項目18の視点の「児童理解のための視点」シートを作成した。（参考資料 ）「児童理解のための視点」により、教員が児童の観察を行った結果を昨年度の同様の調査と比較したところ、教員が「学校生活で特別な配慮を必要とする」とした児童の割合が高くなった。このことは、児童を観察する視点を定めたことによって、教員の児童に対するとらえ方が定まったことと関連していると考えられる。

(2) 研修会実施計画

児童理解の力の向上のために、R-PDCAサイクルを活用した研修会実施計画を作成し実施した。PDCAの小サイクルを活用するために「研修会アンケート」（補助資料 ）を研修会ごとに実施し、個々の教員の自己評価と研修の業務評価を行った。その結果の分析・考察をし、次の研修会の内容や実施方法、研修会資料の改善を行った。（補助資料 ）

このような研修会では、個人情報保護について留意する必要がある。本研究では、個人情報に係る資料は、担当が保管・管理をした。

図1【R-PDCAのマネジメントサイクルを活用した研修システム】



Research(研修課題の把握)では、「学校生活に特別な配慮を要する児童」について校内で調査を実施した。その際「児童理解のための視点」を教員が児童を観察するときの指標とした結果、教員が学校生活に特別な配慮を要する児童の割合は、平成17年度は3.8%であったのに対し、平成18年度は7.2%になった。

児童の課題や配慮事項を分析し、児童の課題を「メンタルヘルス」 1「ライフスキル」 2「ヘルスニーズ」 3に分類した。

Plan(計画)では、児童の実態と教員が解決したい児童の課題、そして校長の学校経営計画を基に年間研修計画を作成した。

Do(実施)では、児童理解のための講演会や演習を取り入れるなど、PDCAの小サイクルを活用して研修が効果的に行われるようにした。研修会ごとに研修会アンケートを実施し、効果評価と研修会の運営に関する業務評価を行ったことで、研修中に生じた課題を次の研修の改善に生かすことができた。

Check(評価)では、研修システムの評価を教員による自己評価と管理職による客観的評価を行った。このことにより、研修が教員の主観的評価だけではなく、研修効果が教育活動に生かされるものであったかどうかを客観的に測ることができた。

Action(改善)では、今年度の研修成果と反省を基に、来年度に向けた改善策を決定する。

- 1 精神の健康をはかったり、精神障害の予防や治療をはかたりする活動および研究
- 2 個々人が日常生活において生じる要求や難問にうまく対応できるように適応的、積極的に行動するうえで必要な能力である。(WHO定義より)
- 3 健康に関して、対応を必要とする課題(高橋定義)

(3) 児童理解の力の向上のための研修会

研修会のねらい

「児童理解の力の向上」という大きなねらいを達成するために、研修会ごとの目標を設定した。研修会ごとの目標を設定し、研修会に参加した教員の目的意識を明確にすることで、研修効果が向上すると考えた。

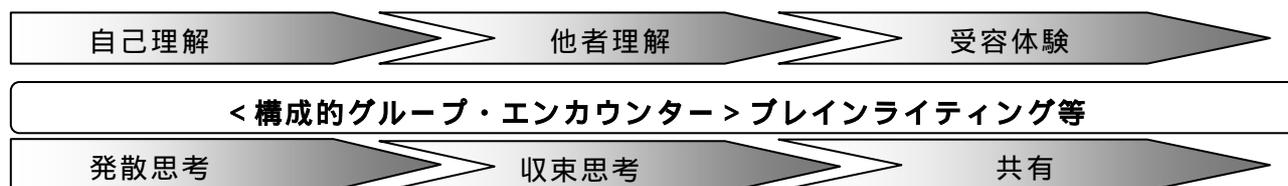
知る つかむ 深める	第1回研修会	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童の理解と支援の工夫について知り、今後の教育活動に活用できるようにする。 児童理解のための研修会の手法について知る。
	第2回研修会	教職員が、個々の児童のコミュニケーションづくりの課題について理解する。 児童の課題について考え、協議することを通して、教職員の相互理解を深める。
	第3回研修会	教職員が、児童の集団でのコミュニケーションづくりの手法について理解を深める。 児童の課題について考え、協議することを通して、教職員の相互理解を深める。

研修会の運営

教員が課題解決について考えを深める個人研究の場面、さらに、お互いの考えを知り、学び合い、解決策をまとめるグループでの研修の場面を設定した。このことによって、個人研究の考えを発表することで自己表現し、他の教員の考えや悩みを聞くことで他者の思いや考えを理解しようとする事ができた。研修会では、子どもの課題の背景や要因を多面的にとらえ、課題解決を教員間で学び合うことができる構成的グループ・エンカウンタ

ーの手法を取り入れ、ワークシートを活用する等、自分や他者への気付きを深める方法を工夫した。(参考資料)

【研修会の流れ】



(4) 対応のヒントカード

研修過程で、「授業中に落ち着かない」「話が聞けない」等、児童のコミュニケーション能力の課題が明確になった。これらの課題に対して適切な対応をし、学習の遅れや仲間づくりがしにくい状態を防ぐことにより、いじめや不登校といった二次的困難を予防できる。その手だての一つとして、養護教諭の視点を取り入れた児童への対応のヒントカードを作成した。研修会で、児童の課題に対するとらえ方の多面化と対応の仕方の参考として活用した。(参考資料)

(5) 研修の評価

マネジメントサイクルに基づき、研修会ごとに、研修効果と業務評価に関する教員の評価を行った。研修会ごとの評価によって、毎回の課題を明確にすることで次回の研修の目標を教員の課題に沿ったものにできた。さらに、研修システムについて、教員の児童理解の力とコミュニケーション能力の向上に関する教員による自己評価および教員集団の変容と研修システムに関する管理職による評価を実施した。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 研修システムの評価

教員の自己評価では、研修が「児童理解の力の向上に役立ったか」「教員の相互理解を深めるのに役立ったか」について肯定的回答は、いずれも 78.6%であった。若手教員から、キャリアを積んだ教員との意見交換が有意義であったとの評価が得られた。管理職の評価では、教員の変容に関して「組織の人間関係が豊かになった」また、研修システムに関して「OJT システムとして、現場で多様な機能を発揮できる可能性を感じた」という評価を得た。

2 研究の結果

- (1) 児童理解の力の向上のための研修システムを構築し実施することで、児童の実態と教員の目標に沿った校内研修を効果的に実施することができた。マネジメントサイクルを活用した研修システムづくりが教員の授業力向上のために有効であることが分かった。
- (2) 養護教諭の専門性を生かし、児童のヘルスニーズ等の視点を提示することにより、教員の児童理解のための観察の視点を広げる一助となった。
- (3) 児童の課題を多面的にとらえ、対応するためのヒントを示しながら研修会を行うことで、児童の課題について理解を深めることができた。同時に教員間の相互理解が深まり、教員集団のコミュニケーション能力を高めることができた。

Ⅳ 今後の課題

- (1) 教員の児童への支援と児童の変容について、具体的な事例の検証を行う必要がある。
- (2) 教員による自己評価および管理職による評価に基づき、来年度の研修計画の立案を行う。

秘

児童理解のための視点

児童の課題を解決に導くためには、教員の適切な支援が必要です。適切な支援や援助を行うためには、深い児童理解が重要です。そのためには、日常の教育活動、児童と接するすべての機会において児童を観察し、心や体の変化をとらえることが大切です。「児童理解のための視点」では、児童理解の参考とするために6項目 18 の視点を設けました。

Table with 2 columns: 項目 (Item), 目 (Viewpoint). Items include: 1 基本的な生活習慣 (Basic Life Habits), 2 行動 (Action), 3 人間関係 (Interpersonal Relationships), 4 学力 (Academic Ability), 5 体・疾病 (Body/Health), 6 家庭 (Family).



児童理解資料

Table with 2 columns: No., 児童氏名 (Child Name), 現在の様子と配慮事項 (Current Status and Support Items).

研修会アンケート

平成 年 月 日

今日の学びと課題・意見

氏名

項目1) 今日の研修は、児童の課題について理解を深めることに役に立ちましたか。

Response scale for Item 1: とても役に立った, 少し役に立った, あまり役に立たなかった, 全く役に立たなかった.

今後、児童への支援に、どのように役立てることができそうですか。

項目2) 研修の方法は、課題解決のための手だてを考えるのに役に立ちましたか。

Response scale for Item 2: とても役に立った, 少し役に立った, あまり役に立たなかった, 全く役に立たなかった.

今後、行ってみたい手だてを書いてください。

項目3) 研修会は、先生方の話し合いや相互理解を深めるために役に立ちましたか。

Response scale for Item 3: とても役に立った, 少し役に立った, あまり役に立たなかった, 全く役に立たなかった.

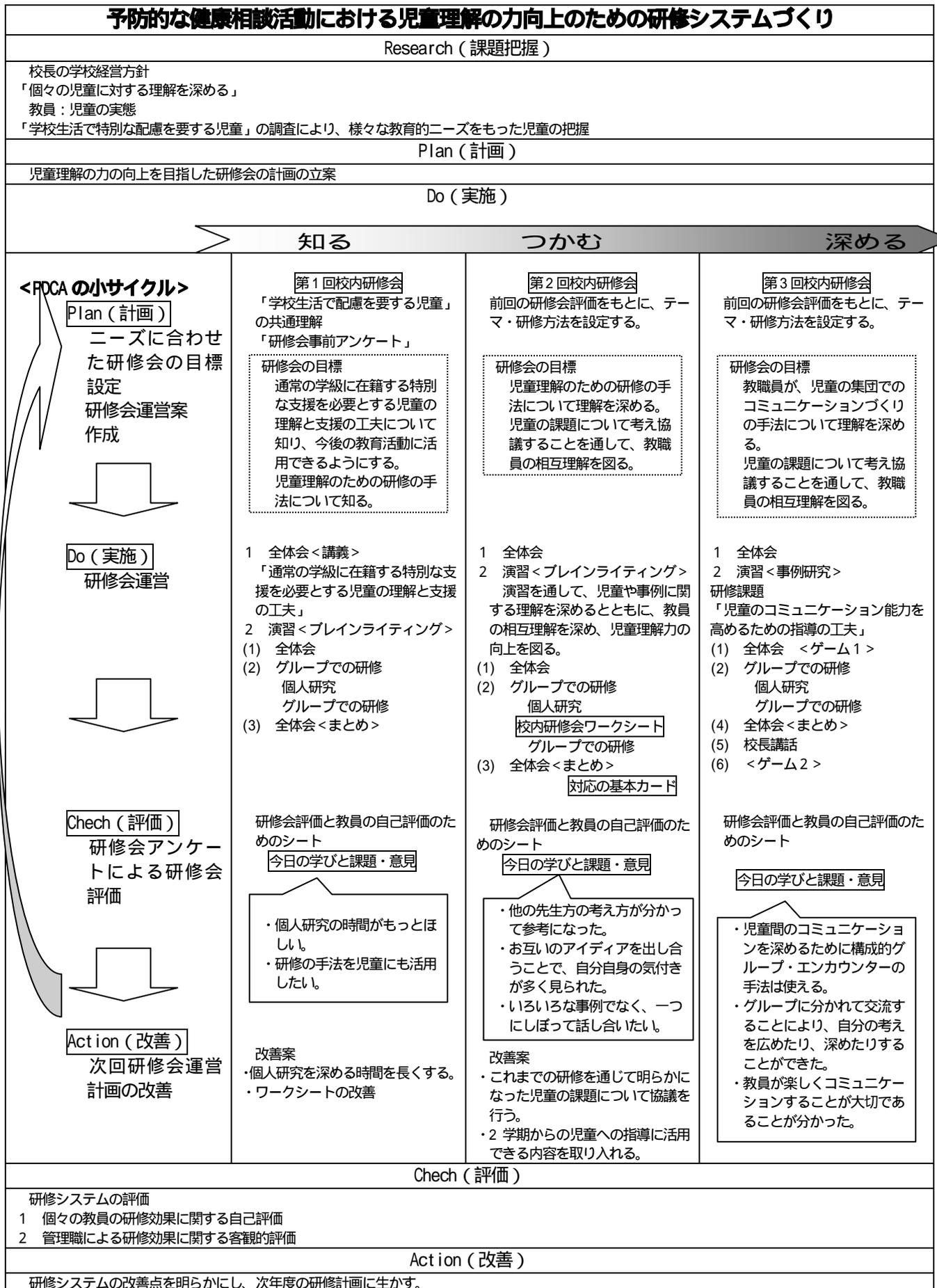
今日の研修会で分かったことを書いてください。

項目4) 研修の時間の設定や方法は適切でしたか。

Response scale for Item 4: とてもよかったです, 少しよかったです, あまりよくなかった, 全くよくなかった.

項目5) 今後、どのような研修を希望されますか。研修のテーマ、内容、方法等について意見ををお願いします。

校内研修運営プロセス



児童理解の力の向上のための校内研修会ワークシート

私だったら、こうするかな・・・ **課題解決策**

解決したい児童の課題：

**〈ステップ1〉
予想される理由**

	理由（背景や原因と思われること）
😊	
😊	
😊	
😊	
😊	

**〈ステップ2〉
解決策を考えよう**

	解決策 1	解決策 2
😊		
😊		
😊		
😊		
😊		

児童の行動の理由には様々な要因や誘因が考えられます。それらに、適切な対応をすることで、児童の学校生活をよりよいものにすることができます。この対応のヒントカードは、メンタルヘルス・ライフスキル・ヘルスニーズといった視点から、児童の行動の理由や対処の方法を考え、予防のための支援や配慮を行うために作ったものです。児童が視覚的な情報が受け取りやすいのか、聴覚的な情報が受け取りやすいのかを見極めることも支援や配慮の手だてを考える上で大切なことです。

(例)

対応のヒントカード			
落ち着かない子			
児童の様子	予想される理由	行動への対処	予防のための支援や配慮
メンタルヘルス	<ul style="list-style-type: none"> ○課題が理解できていない。 ○周囲に気になる刺激が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今やるべき課題を児童が理解できるようにはっきり示す。 ○余分な刺激を排除し課題に集中できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味を引くような様々な教材を用いて、学習に向かう態度や注目、集中する時間を少しずつのばしていく。 ○あいさつや合図で場面が切り替わることを理解できるように、毎日の生活を構造化する。
ライフスキル	<ul style="list-style-type: none"> ○睡眠不足である。 ○朝食を食べていない。 ○朝、家で気になる出来事があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それまでの生活のどこにつまずきの元があるのかを児童と話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣について、本人、家庭、学校が協力して、改善できることを少しずつ増やしていく。
ヘルスニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○アトピー性皮膚炎がある。 ○ぎょう虫がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○汗等を水で洗い流させる。 ○健康診断の結果を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○医療的なケアを十分受けるようにする。 ○学校での具体的な対応について家庭から情報を得る。 ○検査結果が陽性の場合、受診を勧める。 ○予防のための、手洗いの励行を指導する。

〔参考〕DSM -

教室でできる特別支援教育のアイデア 172 小学校編 月森久江編集 図書文化

ここがポイント学級担任の特別支援教育 河村茂雄編著 図書文化